

都道府県・ 指定都市番号	43	都道府県・ 指定都市名	熊本県	研究課題番号・校種名	2(5) 小学校・中学校
				領域名	校種間連携
研究課題	学校全体で取り組む研究課題 (5) 校種間の連携による教育課程の編成、指導方法等の工夫改善に関する実践研究				
指定年度	平成 28 年度～平成 29 年度				
ふりがな 学校名 (園児・児童数)	やまがしりつかほくしょうがっこう 山鹿市立鹿北小学校 (133 人) やまがしりつかほくちゅうがっこう 山鹿市立鹿北中学校 (81 人)			学校・地域の特色及び実態等 ○特別支援学級在籍児童・生徒の増加、通常学級在籍児童・生徒への個別指導の比重増加。 ○鹿北小学校、鹿北中学校は隣接。	
所在地 (電話番号)	(鹿北小) 熊本県山鹿市鹿北町四丁1469番地1 電話 0968-32-3334 (鹿北中) 熊本県山鹿市鹿北町四丁 1464 番地 電話 0968-32-2019				
研究内容等掲載ウェブサイト URL	http://jh.higo.ed.jp/kahokujh/				
研究のキーワード	9 年間の連続した学び、小中一貫、UDの授業力向上、合理的配慮				
研究結果のポイント	<p>○実態調査・合同アンケートにより、児童生徒の実態を踏まえ、目指す生徒像を小・中学校の教職員で作成し、その生徒像に近づくために具体的な課題を設定し研究に取り組んでいる。</p> <p>○実態を踏まえ、特別支援の視点から、小・中学校共通の学習過程、及び授業展開の工夫を共通実践事項として定め、校種、学年、教科を越えて授業改善に取り組んでいる。また、学習に関するアンケートにより児童生徒の学習への取組についての変容を見てみると、児童生徒の学習意欲の高まりが見受けられる。</p> <p>○どんな力をつけたいのか、ねらいを明確にした上で、多様な異学年交流（学校行事、ボランティア活動）に取り組んできた。児童生徒、職員の校種間連携への意識が高まり、9年間という連続した期間で教育活動を捉えるようになってきている。</p>				

1 研究主題等

(1) 研究主題

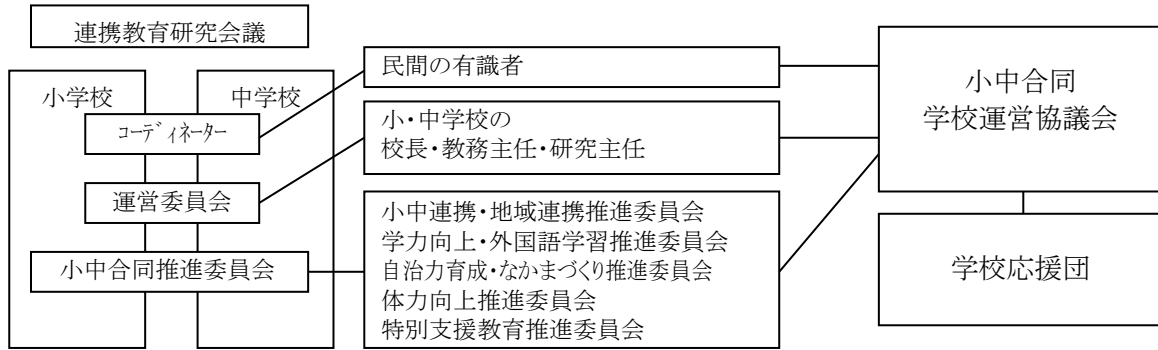
児童生徒の発達の段階を踏まえ、9年間の連続した「学び」の確立と、インクルーシブ教育システム構築を融合させた学習指導の工夫・改善

(2) 研究主題設定の理由

- ① 特別支援学級在籍児童生徒、通常学級在籍児童生徒への個別指導の比重が確実に増加している状況を踏まえて、学習内容定着の効果を上げるための教育課程の編成及び9年間の連続した学びのための学習指導の工夫・改善を行うことは喫緊の課題となっている。そして、小・中学校が連携して、インクルーシブ教育システムの構築をさらに進め、合理的配慮の充実、UDの授業力向上等を踏まえた一貫教育体制構築に取り組むことは、児童生徒の学力向上、生きる力育成にとって不可欠である。
- ② 鹿北町の三つの小学校は、3年前に統合し一つの小学校(鹿北小学校)となり、鹿北中学校に隣接する形でつくられた。現在、鹿北町にある一つの小学校と一つの中学校は併設型の小中一貫教育を進めるための環境が整っている。今後、教職員や児童生徒の交流や連携を深め、小学校、中学校のそれぞれの文化を理解し実践につなげることで、個々の教職員の授業力や指導力の向上を図ることができると思われる。

上記のような理由により研究主題を設定した。

(3) 研究体制



(4) 1年間の主な取組

平成 28 年 度	<ul style="list-style-type: none"> ・小中合同の学校運営協議会設置 ・研究の概要，主題，仮説，組織，年間計画案等の検討及び作成 ・2年後の目指す生徒像の具体化とそれに関する児童生徒の意識アンケート調査の作成及び7月，11月における実施とそれらの分析 ・各種行事やボランティアを通しての交流計画作成，実施（学習指導，運動会への参加など） ・小中合同授業研究会（6／8 中学校2年生英語，10／19 小学校2年生算数）とそれぞれの学校における研究授業，授業研究会の実践 ・担当調査官訪問指導・助言（研究授業実践を含む） ・先進校視察→小中一貫教育に向けた実践，教育課程の編成，異学年交流の年間計画，特別支援の視点での小中共通の学習過程導入，授業展開の工夫，日課表の工夫などへの取組 ・研究のまとめ作成 ・来年度の取組へ向けて（保，小，中連携カリキュラム作成，各推進委員会年間計画など）
--------------------	--

2 研究内容及び具体的な研究活動

(1) 研究内容

- ① 目指す生徒像に関する児童・生徒の実態調査実施・分析・課題把握
 - ア 合同アンケート調査の実施及び分析，課題把握
 - イ 課題克服のための具体的な実践事項の検討・提案・実践（各推進委員会）
 - ウ 定期的な合同アンケート調査実施による成果と課題の分析及び志向
- ② 9年間の連続した学びとインクルーシブ教育システムを意識した学習指導の工夫
 - ア UDを活用した授業展開の工夫と合理的配慮の充実を意識した学習指導の工夫・改善
 - イ 小，中学校のなめらかな接続を図るための小学校6年生への一部教科担任制導入および乗り入れ授業の実施
 - ウ 小学校の外国語活動と中学校の英語学習の効果的な接続
 - エ 小，中学校及び地域との連携を重視した体力向上プログラムの作成
 - オ 小中一貫教育を充実させるための義務教育学校視察・研修
- ③ 児童・生徒及び教職員の連携・交流推進
 - ア 児童・生徒の交流
 - a 各種学校行事を通しての交流計画作成・推進
 - b 読書活動，体力向上及び部活動，音楽活動等による小中連携，地域連携推進
 - c 児童会活動と生徒会活動の連携と協働，リーダー育成と集団の質の向上
 - イ 教職員の交流
 - a 小中合同研究授業及び授業研究会の実施
 - b 鹿北中学校区保，小，中連携協議会の開催及び各部会活動による連携強化

(2) 具体的な研究活動

【全ての推進委員会で】

- ① 目指す生徒像に関する児童・生徒の実態調査実施・分析・課題把握

小中合同の目指す生徒像を作成した。また，それらの項目に関するアンケート調査を作成し，実施した。

 - ア 合同アンケート調査の実施及び分析，課題把握

小中の職員が五つの推進委員会に分かれ，それぞれの部会で分析し，課題を把握した。
 - イ 課題克服のための具体的な実践事項の検討・提案・実践

五つの推進委員会で共通実践事項を決め，実践した。
 - ウ 定期的なアンケート調査実施による成果と課題の分析及び志向
 - 1，2学期末に実施し，成果と課題を分析した。それをもとに手立てを検討し，3学期の実践につなげた。

【学力向上・外国語学習，体力向上，特別支援教育，各推進委員会を中心に】

- ② 9年間の連続した学びとインクルーシブ教育システムを意識した学習指導の工夫
 小中の研究テーマは同じものを設定した。まずは，共通の実践事項の設定を目標に，試行錯誤しながら，授業改革に取り組んだ。
- ア UDの授業力向上と合理的配慮の充実を意識した学習指導の工夫・改善
 1学期は，UDの授業力向上，合理的配慮の提供を中心に取り組んだ。中学校での提案授業，合同の授業研究会を受けて，小中それぞれで授業改革に取り組んだ。2学期は，視察研修での学びを元に，特別支援の視点での小中共通の学習過程導入，授業展開の工夫を中心に取り組んだ。これは校種，教科をこえた共通の取組である。その取組を受け，10月には，小学校で提案授業を行い合同で授業研究会を行った。
 - イ 小・中学校のなめらかな接続を図るための小学校6年生への一部教科担任制導入及び乗り入れ授業の実施
 音楽科については，より専門性が必要となる教科であることと，週の時数が少なく小，中の異なった日程の中でも計画しやすいという理由で，中学校の教職員が小学校6年生の指導を行っている。来年度は，ティームティーチングを含め，保健体育，理科，外国語活動等の教科を検討している。
 - ウ 小学校の外国語活動と中学校の英語学習の効果的な接続
 外国語活動から英語へ円滑につないでいくために，クラスルームイングリッシュを含めた，系統性のある小学校3年生からのカリキュラムの立案を計画している。
 - エ 小・中学校及び地域との連携を重視した体力向上プログラムの作成
 児童生徒は，山鹿市主催のかほく祭り健康マラソン大会へ積極的に参加し，地域の人々との交流を図ることができた。また，保，小，中合同駅伝に向けて，班編制，練習，本番と保，小，中で連携した取組を実施した。今後，現在取り組んでいる体育委員会主催の体育的行事をもとに継続的な体力向上プログラムの作成を予定している。
 - オ 小中一貫教育を充実させるための義務教育学校視察・研修
 保，小，中連携を元に，小中一貫教育に向けた実践，教育課程の編成，異学年交流の年間計画，研究主題具現化のための小，中学校の授業における学習過程の共通化への取組，日課表の工夫などに生かしている。

【小中連携・地域連携，自治力育成・なかまづくり，体力向上，各推進委員会を中心に】

- ③ 児童生徒及び教職員の連携・交流推進
- 1学期当初より，計画的に様々な連携・交流を行ってきた。
 - ア 児童生徒の交流
 社会性及びコミュニケーション力の育成を目指しての取組
 - a 各種行事を通しての交流計画作成・推進
 交流計画をもとに交流を推進することができた。梅ちぎり，小学校から中学校への梅干しプレゼント，中学生による小学生への夏期休業中の補充指導，交流給食，交流給食を行った日の昼休みの交流活動（レクリエーションなど），一部の小学生の中学校体育大会への参加，中学生による小学校運動会の運営補助，小学校餅つき大会への一部の中学生の参加，保，小，中合同駅伝大会，特別支援学級，小中合同体験学習（キャンドル作り）等を実施した。
 - b 読書活動，体力向上及び部活動，音楽活動等による小・中連携，地域連携推進
 読書活動推進員による小中合同読み聞かせやハンドボール小中合同練習会（社会体育）を実施した。また，地域の行事であるナイトハイクに小，中学生がともに積極的に参加した。全国茶山唄大会へ向けた合同練習を実施した。また，地域の祭りであるかほく祭りで小中学生がともに合唱のステージ発表を行った。
 - c 児童会活動と生徒会活動の連携と協働，リーダー育成と集団の質の向上
 保，小，中合同駅伝大会や給食後の交流活動などの企画，運営を行った。かほく祭りの翌日，会場内の清掃活動を合同のボランティア活動として実施した。
 - イ 教職員の交流
 - a 小，中合同授業研究会及び校内研修の実施
 小中でそれぞれ1本ずつの研究授業をもとにした合同の授業研究会を計画に沿って実施できた。また，小中で共通実践項目を決めてUDの視点に基づいた学習指導の工夫・改善を目指した校内研修を実施した。
 - b 鹿北中学校区保，小，中連携協議会の開催及び各部会活動による連携強化
 年3回，保，小，中学校の職員が参加し，「保，小，中連携カリキュラム」に基づいた実践及び改善を図っている。また，関係機関主催（子育て支援センター）の保，小，中の代表者による情報交換会（スマイル連絡会）を月1回行っている。

3 研究の結果と今後の取組

(1) 研究の結果

児童生徒へのアンケートを実施し，変容を把握した。1回目のアンケートを7月に行い，2回目を11月に行った。その結果を基に成果についてまとめた。以下は自己評価の項目。

1	していない できていない 思わない	2	あまりしていない あまりできていない あまり思わない	3	まあまあしている まあまあできている まあまあ思う	4	している できている そう思う
---	-------------------------	---	----------------------------------	---	---------------------------------	---	-----------------------

アンケート結果一部抜粋

教育課程研究 実態調査集計	小学校7月				小学校11月				中学校7月				中学校11月			
	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4
① 地域のひととの交流	5%	23%	32%	41%	4%	23%	29%	43%	5%	37%	45%	12%	4%	22%	45%	30%
② 小中学校を身近に感じる	14%	23%	33%	29%	11%	14%	40%	35%	5%	15%	51%	29%	7%	15%	39%	39%
③ 小中交流はよいこと	5%	8%	38%	49%	0%	5%	28%	67%	1%	12%	43%	44%	5%	12%	41%	42%
④ 授業での学ぶ楽しさ	3%	14%	46%	38%	0%	8%	49%	43%	1%	15%	56%	28%	0%	12%	59%	28%
⑤ 学び合いができる	3%	18%	47%	32%	2%	13%	43%	43%	3%	20%	60%	17%	1%	7%	65%	27%
⑥ 自分なりの家庭学習	2%	18%	42%	38%	2%	13%	38%	48%	5%	27%	49%	19%	3%	16%	62%	19%
⑦ 学級で認められ、安心	3%	12%	41%	44%	3%	8%	53%	38%	7%	13%	49%	31%	1%	9%	55%	34%
⑧ 自分の体力や健康に関心ある	6%	17%	41%	37%	5%	18%	38%	40%	1%	24%	51%	24%	1%	18%	54%	27%
⑨ 友だちに手助けを求める	11%	12%	44%	33%	8%	16%	30%	46%	1%	11%	39%	49%	0%	1%	41%	58%

成果

- 【小中連携・地域連携】上表①，②，③参照
「①地域のひととの交流」では，3，4評価をした中学生の割合が57%から75%と大幅に上昇した。総合的な学習の時間での福祉施設への訪問や職場体験学習の実施がその大きな要因と考えられる。また，夏季休業中のワークキャンプへの参加，吹奏楽部による地域の高齢者福祉施設，サロンでの多数の演奏会の実施なども挙げられる。次に，「②小中学校を身近に感じる」では，中学校で4評価の割合が10%，小学校で3，4評価の割合が13%増えた。交流の密度が高くなっていると感じている児童・生徒が多くなっていることが成果として挙げられる。「③小中交流はよいこと」で3，4評価をした小学生の割合が8%増加した。特に4評価をした児童が18%上がっている。様々な小学校の行事に中学生が参加し協力する機会が増えたことや交流を楽しんでいる児童が増えたことが原因と考えられる。交流を肯定的に捉え，自分の成長を感じ取っている様子が見られる。
また，社会性及びコミュニケーション力育成に向け，地域との連携・交流や様々な行事における異学年交流に取り組んできた結果，達成感や自己有用感等を感じることができたと考えられる。
- 【学力向上・外国語活動】上表④，⑤，⑥参照
「④授業での学ぶ楽しさ」について1評価をした児童・生徒の割合は，小，中学校ともに0%となった。授業改善への取組の成果だと考えられる。「⑤学び合いができる」に関しては，4評価をした小学生が10%増加，3，4評価をした中学生が15%増えた。学び合いに取り組む機会や回数が増え，自信をつけてきたのではないかと考えられる。
全職員で，授業のUD化と合理的配慮の提供を中心に，めあてとまとめの連動をはじめ誰もがわかったと実感できる授業づくりに取り組んだ結果が，数値として表れていると捉えることができる。
また，「⑥自分なりの家庭学習」について3，4評価をした生徒が13%増加した。小学生に関しては4評価をした生徒が10%増えた。点数ではなく，取組への評価を継続して行ったり，家庭学習ノートを手本として掲示し，やり方を広めたりしたことがよい結果につながっていると考えられる。個に応じた家庭学習を継続していくことで，一層の習慣化につなげたい。
- 【自治力育成・なかまづくり】上表⑦参照
「⑦学級で認められ安心できる」3，4評価の割合が小学校で6%，中学校で9%上昇した。授業中のペア学習や教え合いによる交流，児童会活動や生徒会活動の活性化，異学年交流，地域交流などを通して，他者に対する礼儀や態度の向上，コミュニケーション力の向上が見られ，学級での交流が活発になったことも成果の要因と捉えている。小学校では，なかまづくりの土台となる対人スキル育成のために，週に1回，朝の活動でソーシャルスキルトレーニングを導入している。
- 【体力向上】上表⑧参照
「⑧自分の体力や健康に関心がある」で，少しではあるが児童・生徒の意識の向上が見られた。中学校においては，2学期から全ての部活動が集まり，合同での部活練習（アップのみ15分間）を行っている。また，すべての生徒を対象に希望者による朝からのランニングへの取組など新しいものにも取り組んでいる。小学校では，合同駅伝に向けて主体的に練習に取り組むよう「ランニングカード」を作成した。意欲的に走る姿が多く見られるようになった。
- 【特別支援教育】上表⑨参照
「⑨友だちに手助けを求めることができる」では，4評価をした小学生が17%，中学生は3，4評価をした生徒が88%から99%に増加した。授業中のペア活動，教え合いや学び合いの実践などが功を奏し，相手を思いやる気持ちや互いのきずなが深まってきていると考えられる。

課題

- それぞれの推進委員会において，単発でイベント的に活動するのではなく，学年段階に応じた身に付けたい力を明確にしてどう関連付けていくかなど計画的，継続的に取り組んでいく必要がある。そのためにより細かいステップで目指す生徒像を設定し，小中の系統を明確にしていくなど年間計画の工夫が必要である。また，定期的に推進委員会を中心に取組状況や手だての振り返りを行い，改善を図る。

(2) 今後の取組

- 保，小，中連携カリキュラムの見直し，作成（6-3制の枠組の見直し，保小中15年を視野に入れた学びの連続性を重視した教育の創造）
- 9年間を見通した教育課程，全体計画，年間指導計画の編成
- 小，中学校の日課の検討（小学校における教科担任制で，音楽以外の教科についても中学教員が指導できるように，全部の授業で開始又は，終了の時間をそろえるなどの工夫）
- 来年度の各推進委員会実践事項に関する年間計画の作成
- 成果報告会の開催（来年度後半をめぐり，山鹿市を対象に予定）